

## 令和4年度 実施事業の概要

教育事業名：プログラム体験会・冬～雪洞泊～

期間 令和5年2月11日(土)～12日(日)

対象及び参加人数：

- ・青少年教育関係者で、自然体験を指導できる知識と技能を身に付けたい方
  - ・自然体験に興味関心のある方
  - ・来年度の妙高青少年自然の家での冬季利用において、雪中泊を予定している団体の指導者の方
- 9名(社会人)が参加。

目的：

- ・自然体験活動の指導者として幅広い知識と技術をもち活躍できる人材を育成する。
- ・利用団体の引率者等の研修の機会とし、妙高のフィールドや身近なフィールドでの指導技術の向上を目指す。

事業概要：

上記目的のため、事業を実施した。各講習は、以下のとおりである。

雪洞づくり講義・雪洞づくり…小菅 江美 氏(NPO 法人緑とくらしの学校森のこども園てくてく 園長)

雪灯ろうづくり・雪中泊準備・雪洞こわし・物品返却・振り返り…自然の家職員

成果：

講義では、雪質や風向きなどの妙高の自然環境の特性に応じた雪洞の作り方や安全管理について学んだ。演習では、2～3名の4つのグループに分かれて雪洞を作った。様々な道具を状況に応じて使い分け、グループのメンバーと協力して作る姿が見られた。振り返りの時間では、グループごとにフリートークを行い、個人で感じたことをキーワードにまとめて発表した。参加した目的は各個人で異なるが、雪洞泊という共通の体験を通し、感じたことや学んだことを共有したり深めたりすることができた。また、活動指導母体に戻ったときに、学んだことをどのように生かしていきたいかなどを具体的に聞くことができ、この事業の価値を感じることができた。

アンケートでは、「チームワーク力、創造力、危機対応能力などが学べる素晴らしいプログラムだと思った」「豪雪だから、新潟の雪だからできることを多くの人に体験していただけるように今住んでいる地域でもやってみたい」などの意見があったことから、雪洞づくりの楽しさを感じたり、指導者としての基本的な知識・技術を学んだりすることができた体験会であった。



課題：

依頼できる講師が少ないことが課題である。妙高青少年自然の家のフィールド環境や物品などについて熟知している小菅氏に例年依頼をしているが、今後継続して事業を行っていくための講師の検討や施設職員の育成を考えていく必要がある。

